

新事業展開に向けた知財戦略を構築

会社名 株式会社ダイワメカニク
 所在地 新潟県燕市小池3501番地11
 従業員 30名
 資本金 5,000万円
 売上高 700百万円
 業種 プラントの計画・設計・製造・据付工事・保守点検、FA



支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 洋食器の自動研磨システムを開発し、燕市の洋食器産業の継続に貢献するとともに3次元局面の自動研磨システム技術を展開させていきたい。
- 洋食器以外の分野も視野に入れており、それを実現していくための事業戦略や知財戦略を具体化することが必要。

支援を受けてできるようになったこと

After

- 今後進めていく事業のビジネスモデル精査およびアクションプランの策定を行い、それを支えるための知財戦略を検討することができた。
- 社内で実際に知財戦略を実行していくために、チームを立ち上げ、営業秘密管理や職務発明規程の整備に着手。

今後の事業展開の展望

Future

- 新事業を具体的に進め、本格的な展開を図っていく。
- 知財戦略の実行を担うチームによる運営を開始し、出願・権利化や規程整備等を進めることで盤石な体制を構築していく。

重点支援を受けた事業や商材



高速力覚制御による包丁の自動研磨

長岡技術科学大学と共同でカトラリー（洋食器）の自動研磨技術を開発している。

燕市は洋食器製造のシェアが高く、伝統産業となっているが、近年職人の高齢化や後継者不足等の問題が顕在化してきている。

こうした背景に危機感を抱き、当社はサポイン事業等を活用して3次元局面の研磨技術を開発してきており、これを活かして職人による技を取り入れた自動研磨システムの完成を目指している。

【出典】株式会社ダイワメカニク ホームページ
<http://www.daiwam.co.jp/>

重点支援を実施するにあたって整理した課題



取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
ビジネスモデルと知財戦略の確立	これまでは受託型事業であったため、事業活動に対して知財視点を十分に取り入れていなかった。 今後目指していく事業の方向性とあわせて、知財戦略を検討する必要がある。
知財マネジメント体制強化	当初、社内の知財意識は十分ではない状況であったが、新事業へ取り組んでいくにあたり、社内における知財体制・意識の確立が必要である。
共同研究に係る契約	新事業展開に際して共同開発を進めていくにあたり、契約の要点を理解したうえで取り組む必要がある。
新たな事業戦略・販売戦略の確立	新事業展開に即した営業・販売方法の確立が必要である。
海外展開	将来的な海外展開の可能性を踏まえて、海外進出に際しての留意点の把握や出願検討が必要である。

重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと



支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
ビジネスモデルの検討	<ul style="list-style-type: none"> 新事業のビジネスに関して討議を行い、今後のビジネスモデル構想およびアクションプランを策定 特許情報を活用してビジネスの確度を精査 	弁理士、 中小企業診断士
知財管理体制構築	<ul style="list-style-type: none"> 営業秘密管理に関するレクチャーを受け、社内担当するチームを設置 職務発明規程についてもレクチャーを受け、今後運用していくためのドラフトを作成 共同開発等における契約意識の獲得 	弁理士
海外展開検討	<ul style="list-style-type: none"> 海外展開の意向・方針を確認した上で、具体的に海外出願を行う際のポイントを理解 	弁理士

支援チーム紹介

リーダー専門家:弁理士 藤掛 宗則

活用専門家:中小企業診断士

知財総合支援窓口担当者:新潟県知財総合支援窓口 比企 修

PO(プログラムオフィサー):山村 正明